

第5章 課題の設定

ここまでの地域及び公共交通の現状などを踏まえると、次の課題が整理できます。

現状		課題
人口	総人口は平成 22 年をピークに減少	① 人口減少・超高齢化への対応
	高齢化率は上昇傾向	
	今後も人口減少・高齢化が進展する見込み	
	市域の東側で特に人口密度が低くなる見込み	
人の動き	トリップ数は減少	② 外出しやすい交通環境の確保 ③ 自動車と公共交通等を「かしこく」使い分ける交通行動への転換 ④ 通勤・通学、観光・まちづくり等移動需要に応じた公共交通ネットワークの確保
	交通手段分担率は、自動車が増加し、バス、自転車、徒歩が減少	
	通勤・通学は、尾張旭市や豊田市、名古屋市とのつながりが強い	
	県の観光入込客数が増加する中、瀬戸市は減少	
鉄道	鉄道は各路線とも 1 時間に 4 本以上の高頻度に運行し公共交通軸を形成	⑤ 鉄道、基幹バスの維持・活性化 ⑥ 地域特性に応じた生活交通の確保
	市内の駅利用者は増加傾向	
	エレベーター未設置の駅が存在	
基幹バス	広域基幹バス、市内基幹バスのほとんどが 1 時間に 1 本以上の頻度で運行し公共交通軸を形成	⑦ 企業や学校等と連携した移動手段の確保
	市内基幹バス利用者数は減少傾向	
	市内基幹バスの収支率は約 54%、市負担金は年間約 8,600 万円程度で近年は微減傾向	
コミュニティバス	コミュニティバスは、基幹バスを補完し交通結節点まで運行しており、毎日運行と隔日運行の路線があり、1 日 5～8 便が運行	
	コミュニティバス利用者数は、近年の路線の再編等によって増加傾向	
	収支率は約 15%、市負担金は約 5,000 万円程度で近年は概ね横ばい	
公共交通網	人口密度が高い地域でも、コミュニティバスでカバーしきれない公共交通空白地域が分布	
	駅 800m 圏内でも、人口密度が高いにもかかわらず、駅・バス停から 300m 以遠の区域がある	
その他生活交通	社会福祉協議会が、老人福祉センター送迎バスを運行	
	社会福祉協議会が、送迎バスの空き時間を活用して買い物支援バスを試行運行	
	名古屋学院大学の送迎バスは、地域貢献の一環として事前登録した周辺住民へ開放	
	下半田川線地域で「デマンド型タクシー」の社会実験を実施	
	菱野団地で公共交通空白地域解消のために有償ボランティアによる「住民バス」を運行	

現状		課題
市民意向	市民アンケートからは、現状程度の市負担を認める意見が多い	⑧ 市民ニーズに応じた利便性の向上 ⑨ 市民自ら公共交通を守る意識の醸成 ⑩ 分かりやすい情報提供
	市内基幹バス（瀬戸北線）利用者は、現状程度の市負担で運行を維持すべきとの意見が多い	
	コミュニティバス利用者は、運賃の満足度が高く、運行本数の満足度が低い	
	バスで行きたい施設は、陶生病院、商業施設、図書館などがある	
	市内基幹バス（瀬戸北線）利用者は、バスの乗り心地といった乗車環境の満足度が高く、運行本数、バス停の待ち合い環境の満足度が低い	
	市民アンケートからは、バスを利用しない理由としてバスのダイヤやルートなどの情報が分からないとする人が多い	